とうべつ歴史余話

第27回 チョウザメについて

ネイチャーライター 河井 大輔

チョウザメという魚をご存じでしょうか。名称に「サメ」と付けられていますが、分類的にはサメの仲間ではありません。チョウザメ目という独立した魚類です。形状がサメに似て、鱗が蝶の形をしていることからの名称です。この卵の塩漬けが世界三大珍味の一つ、キャビアです。

かつては石狩川へも遡上していました。それほど珍しくもなかったようで、いろいろな記録が残されています。アイヌ語でチョウザメを意味する「ユペ」「ユーベ」にちなんだ地名（江別、江部乙、湧別など）は各地にありますし、幕末の探検家松浦武四郎は石狩と対雁をチョウザメの産地として記録しています。ということは、昔日には当別川を遡上していたチョウザメもきっといたに違いありません。

昭和に入ると急激に減少してしまい、道内で繁殖していたとされるミドリチョウザメは絶滅種に指定されてしまいました。ただ、ロシアから回遊してくるダウリアチョウザメはいまでも時おり石狩川河口沿岸に姿を見せ、2005（平成17）年には体長1.6mもの個体が捕獲されています。

北海道近海に分布するチョウザメ類は、上記の2種のほかアムールチョウザメ（英名ではなぜか「日本のチョウザメ」とも呼ばれています）を加えた3種が知られてきましたが、近年の研究により、過去に道内の河川に遡上していたのはミカドチョウザメであるという見解が示されています。

このミカドチョウザメは、明治のお雇い外国人ヒルゲンドルフによって記載された種で、その後ミドリチョウザメと同じもの、あるいはその亜種（同一種のうち地域間で異なる集団）ともされてきました。現在では元の種名(ミカドチョウザメ)に復活する形となっているようです。英名ではSakhalin sturgeon（サハリンのチョウザメ）と呼ばれます。

かれこれもう30年以上前の話になりますが、アウトドア雑誌の記者をしていた頃、当別川へ取材に訪れたことがあります。その際、石狩川との合流点付近から、おそらくチョウザメと思われる巨大な魚が当別川を遡上していく、その背中を見たという人の話を聞いたことがありました。その時は、仮にそれがチョウザメであったとしても、遡上先に産卵環境が残されていなければ意味がない、などと妙に冷めた心持ちで聞き取っていたことを覚えています。しかし、なかなか可視化しにくい水の中の世界のこと。記録がないから絶滅とされているだけのことであって、もしかしたらいまもひっそりと当別川を訪れているチョウザメがいるのかもしれません。

ヒルゲンドルフが記載したミカドチョウザメ
※図版出典Рыбы Японского моря и сопредельных частей Охотского и Желтого морей. Часть 2. (Acipenseriformes — Polynemiformes). Г.У.Линдберг, М.И.Легеза 1965

武家文化に端を発する武道・武術を町の特色に

佐藤 圭史（けいじ） さん

合気道の演武の様子

ここに書ききれないエピソードや写真は当別町ホームページ「現在を活きる＋（プラス）」でご覧ください。

当別町在住で、北海道医療大学で教鞭をとりながら北海道合気道連盟の理事長も勤める佐藤圭史さんにお話を聞きました。

日本らしい武道をやりたい

大学の新入生歓迎会で、相手をくるくると回している合気道の演武を見て、変わった武道だなと思ったのが第一印象でした。当時、日本らしい武道をやりたいと考えていたのと、合気道は大学・社会人から始める人が多く、取り掛かる敷居が低いと思ったので始めました。合気道は年配の人がゆっくり技をかけている印象が強いようですが、実際は動きがダイナミックで、最低限の力で効果的に技をかけるのが特徴です。また、畳上での昔の生活様式を想定し、正座から技をかける座技があります。徒手だけではなく、杖・太刀・短刀などの武器を使った稽古もあります。

世界に広がる合気道

合気道は世界約 140 カ国に広がり、小さな市でも道場があります。国際交流や研究の関係で海外出張する際、仕事後に、現地の道場での稽古に飛び入り参加することがあります。そこでは、日本人の有段者ということでとても歓迎されました。また、知らない言語の国を訪れても、合気道を通じて現地の人とコミュニケーションを取り、友達をつくることができました。日本人で日本の武道を習得していることは、海外で活躍する大きなメリットになると思います。

北海道合気道連盟理事長として

昨年６月に北海道合気道連盟理事長に就任しました。ベテランの方が執行部に多かったのですが、若手への世代交代が求められる中、お声がけいただきました。コロナ禍の影響で接触スポーツ・武道への意識、関心が下がっています。女性やご年配の方、子供たちも含め合気道の層を厚くするためにも、連盟活動に尽力していきたいです。

将来の３つの目標

１つ目はコロナ禍で減少した合気道を含む武道やスポーツの競技人口を、セミナーや体験会を通じて回復させることです。

２つ目は、中学校の武道教育カリキュラムに合気道の採用校を増やすことです。合気道はジャージがあれば練習することができる手軽さと、しっかりと受け身の練習をするので怪我をしにくいメリットがあります。

３つ目は、地域発展の一環として、武家文化に端を発する合気道などの武道・武術を当別町の特色にすることです。当別町は士族が入植してできた町として、伝統的なものを強調することができるので、それを推し進めるようなことを担えればと思っています。

日本と海外、教育と地域、過去と現在、そして未来を結びつける一助になれば嬉しいです。

毎年１月から３月末の毎週日曜日 15 時から 16 時に、当別町総合体育館で稽古をしています。また、毎週月曜日 17 時 15 分から 18 時 30 分に、北海道医療大学の武道場で医療大生に対して稽古をしています。興味のある方はぜひ、お越しください。